

資料編

Appendix

CONTENTS

| | | | |
|----------------------|-----|---------------------|------|
| 錠前の性能について | 984 | シリンダー・ケースの互換表 | 990 |
| 材質の特性 | 986 | LAS規格 | 992 |
| 錠前のお手入れのお願い | 988 | 廃止製品一覧 | 1002 |
| 代表的なシリンダーの交換方法 | 989 | 専用カタログのご案内 | 1003 |
| | | 自動施錠錠の選定方法 | 1004 |

錠前の性能について

■錠前の性能について

錠前に要求される耐久性能・強度性能において、美和ロックの錠前は3つのグレードに分けられます。錠前を選定される際には使用される場所・使用頻度に応じて適したものをお選びください。

1. 耐久性能

| | 扉の開閉耐久 | 施解錠耐久 | 主な錠前 |
|---------------------|--------|-------|---------------------------------|
| 軽量級 (Light duty) | 20万回 | 5万回 | C70 (LG, MG) |
| 普通級 (Standard duty) | 40万回 | 10万回 | C70 (LA, MA) HM |
| 重量級 (Heavy duty) | 80万回 | 20万回 | INTERFACE, GIGA, LH, MH, MM, HK |

2. 強度性能

| | ハンドルねじり強度 (Nm) | | ハンドル垂直曲げ強度 (N) | ハンドル引張強度 (N) |
|-----|----------------|----|----------------|--------------|
| | レバーハンドル | ノブ | | |
| 20型 | 20 | 15 | 1000 | 1500 |
| 40型 | 35 | 27 | 2000 | 2000 |
| 80型 | 35 | 27 | 2000 | 2500 |

■錠前の試験方法

試験は「JIS A 1511 錠の試験方法」に準拠して行っております。

1. 耐久性能

(1) 扉の開閉繰り返し試験

① 試験体のセット

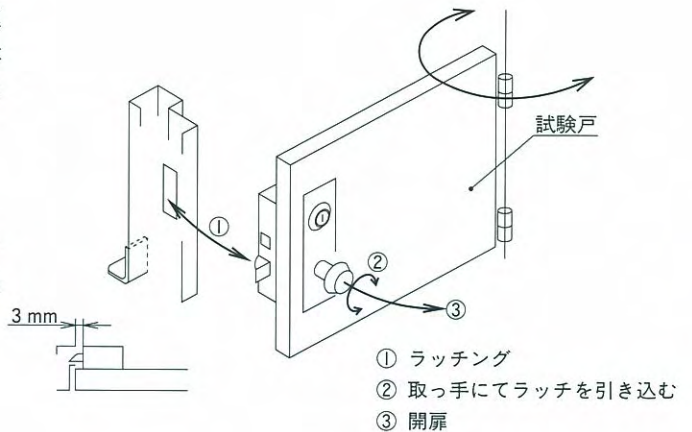
試験体を通常の取付方法に従って試験台に取付け、試験台を試験用ドアセットに取付ける。このとき試験体のフロントとストライクの隙間は約3mmとなるように調整する。

② 試験

ハンドルによる開扉とストライクによるラッチボルトのラッチング(閉扉)をもって1回とし、毎分10回程度の頻度で開閉を繰り返し行う。

③ 試験品目

- ラッチボルトの作動の異常の有無
- ラッチング力、ハンドルの操作力



(2) 施解錠繰り返し試験

① 試験体のセット

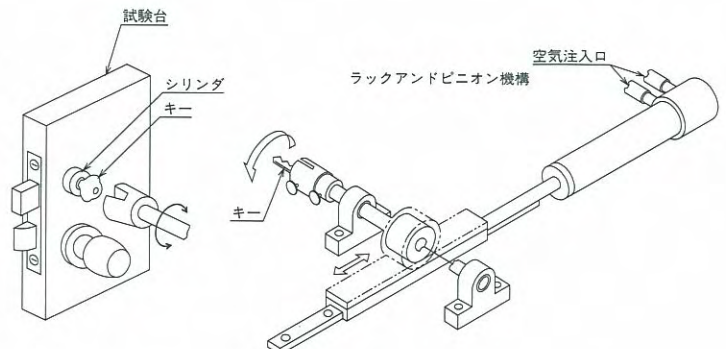
試験体を通常の取付方法に従って試験台に取付ける。

② 試験

施錠、解錠をもって1回とし、毎分10回程度の頻度でデッドボルトを作動させる。

③ 試験品目

- 施解錠の作動の異常の有無
- 施解錠に要する回転トルク



2. 強度性能

(1) ハンドルねじり強度試験

① 試験体のセット

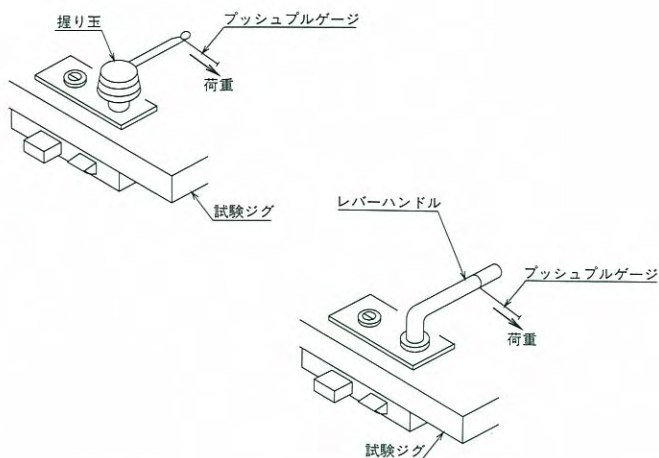
試験体を通常の取付方法に従って試験台に取付ける。

② 試験

ハンドルに回転トルクを加え、所定のトルクを30秒間加える。

③ 試験品目

●ハンドルの変形および作動の異常の有無



(2) ハンドル垂直曲げ強度試験

① 試験体のセット

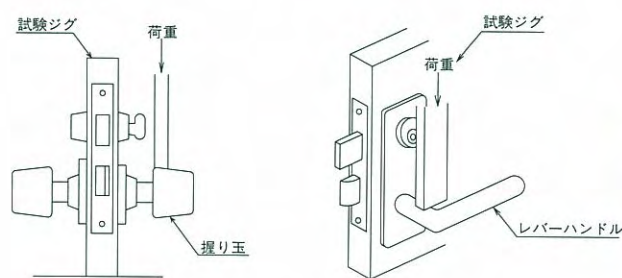
試験体を通常の取付方法に従って試験台に取付ける。

② 試験

ハンドルの握り部幅1/2の軸心上に所定の垂直荷重を30秒間加える。

③ 試験品目

●ハンドルの変形および作動の異常の有無



錠前の性能について

(3) ハンドル引張強度試験

① 試験体のセット

試験体を通常の取付方法に従って試験台に取付ける。

② 試験

【握玉の場合】

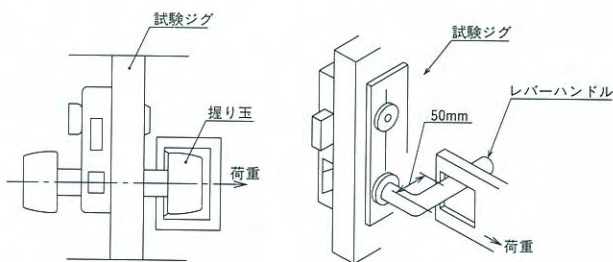
回転軸に引張荷重を30秒間加える。

【レバーハンドルの場合】

回転軸から50mmの位置に引張荷重を30秒間加える。

③ 試験品目

●ハンドルの変形および作動の異常の有無



■ 錠前を正しく作動させるために

錠前を正しく動作させて本来の性能を発揮させるため、建具について次の点をご留意いただきますようお願い申し上げます。

1. 扉の錠前取付部には補強を入れてください。

レバーハンドルの丸座のように扉の両側からビスを締付けて取付ける場合に扉の変形による錠前の不調を避けるためです。

2. 枠にはコンクリートボックスを設けてください。

枠に電気ストライクやスイッチストライクなどの電装品を取り付ける場合にモルタルなどが侵入して誤動作の原因となるのを防ぐためのものです。

錠前の主な材質の特徴と日常のお手入れについて

ステンレス製品について

ステンレスは、鉄やアルミニウムに比べて、はるかに耐食性に優れ非常に錆びにくい金属です。ステンレスが「さび」にくいのは、含有されるクロムが酸素と結合して、地金の表面に100万分の数mmの厚さの強固で、ち密な不動態皮膜を形成し、この皮膜が「さび」を防ぐ働きをするためです。

従って、ステンレスの「さび」は「何らかの原因により不動態皮膜が破壊され、その再生が妨げられる」ときに発生します。しかし、腐食原因が除去され、クロムと酸素の結合が可能になれば、不動態皮膜は再生され、耐食機能を取り戻します。

ステンレスのさびの原因はさまざまですが、ほとんどの場合、空気中に浮遊する鉄粉や有害ガス中の成分付着、堆積、あるいは潮風に含まれている塩分の付着などがあげられます。これらの付着物が核となり、湿気が加わって固着し、ステンレス表面の不動態皮膜を傷つけ、またその再生をさまたげているため、さびが発生します。

このほかに、それ自身は不動態皮膜も破壊しませんが、表面への酸素の供給を妨げたり、結露や上記物質の付着を促進するものとして、すすや粉塵、よごれなどのステンレス表面への堆積があげられます。

弊社のハンドル、シリンダー、フロント等の外装部品についてはステンレスの中でも耐食性に優れたSUS304を使用していますが、上記のようにステンレスといえども全く錆びないわけではなく、使い方や、使用場所によっては錆びることもあります。

しかしながら、さびの初期の段階なら、市販の台所用の清掃剤などを使えばさびは比較的簡単に除去でき、元通りの表面状態に戻ります。

アルミ製品について

アルミはステンレスと同様にその表面にち密な不動態皮膜ができ、地金を腐食から守る働きをします。アルミの場合、不動態皮膜はステンレスほど強固なものではないため、アルミを建材として使用する場合には、アルマイトや塗装などの耐食性を高める処理をします。アルマイトとは、酸化皮膜を人工的に厚くし耐食性を上げる処理で、さらに酸化皮膜を着色することにより各種の色調を得ることができます。

アルミ製品の場合にもステンレス同様、有害ガス中の成分付着、堆積、塩分の付着、ススや粉塵、汚れなどの付着により、腐食が発生することがあります。また、アルカリ性の薬品（洗剤や、セメント、モルタルなど）を付着したままにしておくと、表面が白く脱色してしまうことがあります。

ステンレスと異なり、アルミの場合には、一度腐食や、脱色が発生してしまうと元通りの外観に戻すことができません。

黄銅製品について

黄銅は鉄のように錆びてボロボロに腐食することはありませんが、素材のままでは容易に酸化し、短期間に表面が黒く変色します。そのため、一般的には塗装をして変色を防止しています。しかし、塗装に傷がついたり、摩耗等により塗膜がなくなってしまった場合や、ステンレスやアルミの場合と同様に有害ガス中の成分付着、堆積、塩分の付着などにより変色が発生することがあります。黄銅の場合は特に、結露や腐食物質の影響を受けやすく、汚れやホコリなどの付着は変色の発生を早めることとなります。

黄銅の場合にも、一度変色が発生してしまうと塗装があるために磨くことができませんので、元通りの外観にすることはできません。

錠前をいつまでも美しくお使いいただくためには、いずれの材質のものについても、サビが発生する前に定期的にお手入れを行っていただくことが肝心です。お手入れの方法については、通常は柔らかい布等で乾拭きする程度で十分ですが、汚れが目立つ場合には中性洗剤を使って汚れを落としてください。

錠前の主な
材質の特徴
と日常のお手
入れについて

清掃の頻度について

建物の置かれた環境や部位によって異なりますが、

- ①田園地帯 2～3回/年
- ②その他の地域 3～4回/年

が目安となります。

ただし、海岸地域で海塩粒子の飛来が多い地区、鉄道路線や鉄工所の近くで鉄粉の飛来が多い地区、火山灰の降ることのある地域などでは、さらに清掃頻度を増やすことが望まれます。比較的緩い腐食環境においても、軒下など汚染物質がたまりやすい部位については、清掃回数を増やすことが必要となります。

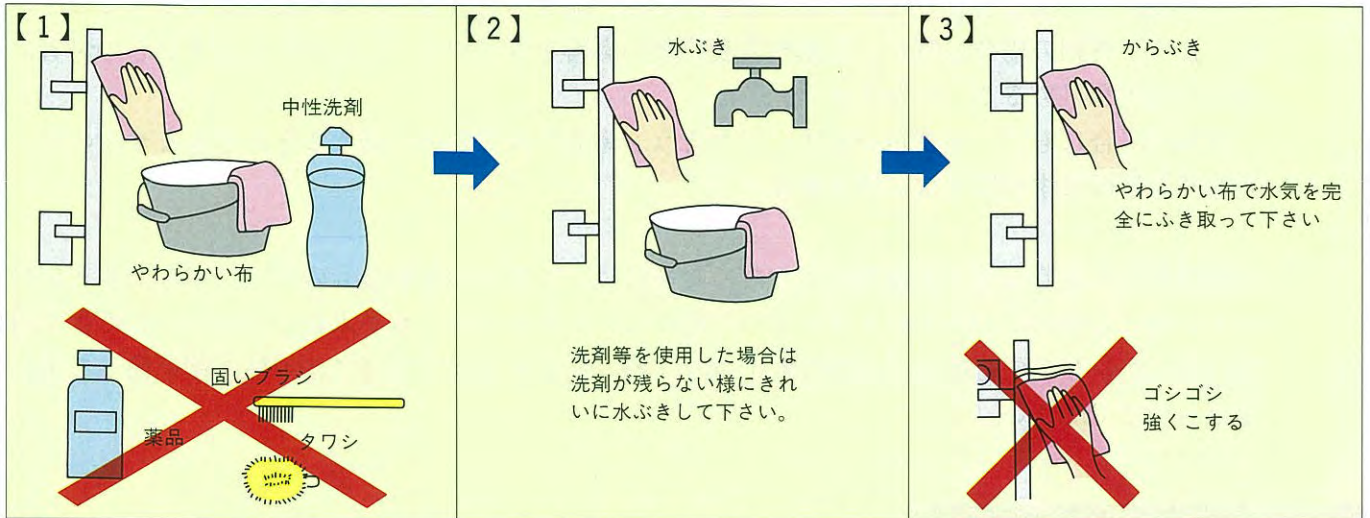
また、黄銅製品はステンレスや、アルミ製品に比べて変色が発生しやすいので、さらに清掃頻度を増やす必要があります。

錠前のお手入れのお願い

錠前の表面材は主にステンレス、アルミニウム、黄銅などですが、サビにくいと言われるステンレスといえども、煤煙や塵、埃、泥などの汚れをつけたまま放置致しますと、化学的・電気化学的反応で表面が浸食されサビます。特に黄銅は容易に酸化され黒変しますので表面に保護膜が塗られており、それが変色を防いでいますが、表面を傷つけたり、汚れをつけたまま放置致しますと、変色します。錠前をいつまでも美しくお使いいただくためには、定期的なお手入れが肝心です。やわらかい布で、汚れに応じて次のようなお手入れを行なってください。

汚れの程度によるお手入れの方法

水では落ちにくい汚れのお手入れ……………【1】【2】【3】を行って下さい。
 風雨がかかった後のお手入れ……………【2】【3】を行って下さい。
 軽い汚れのお手入れ(定期的な掃除)……………【3】を行って下さい。

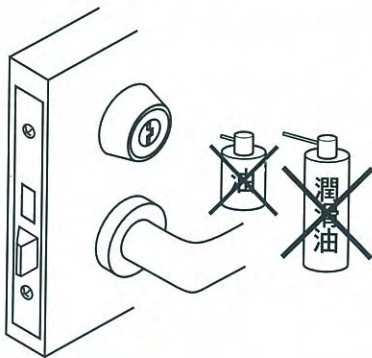


・鍵の抜き差しをスムーズにするために当社製錠前潤滑剤をご使用ください。市販の合成潤滑剤はご使用にならないでください。

鍵・シリンダーのお手入れのお願い

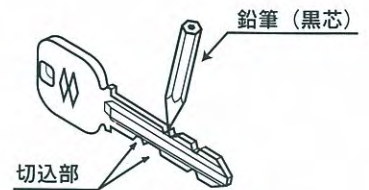
● 鍵穴には注油しないでください。油が埃を呼び動きを悪くします。

● 鍵穴の抜き差しがスムーズでない、または重い時。



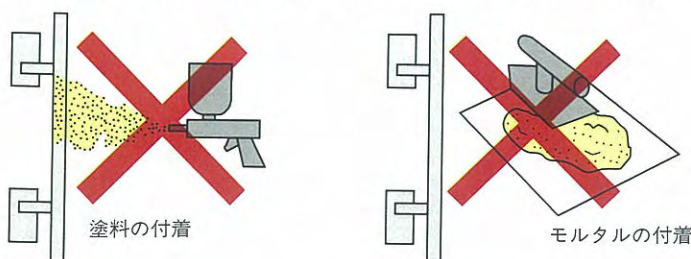
鍵のすべての切込部を鉛筆(先端の黒芯)でなぞるように黒く塗り、その鍵を鍵穴に挿入して数回抜き差しをしてください。鍵の抜き差しがスムーズになります。また一度でスムーズにならない場合は同じ方法を繰り返してください。

鍵の抜き差しがスムーズになりましたら、鍵に付着している黒い粉を布等でふきとってください。付着したまま使用されますと、衣服等を汚す場合があります。



工事店様へ 錠前の養生とお手入れのお願い

工事中に錠前の表面に傷をつけたり、塗料、モルタルなどを付着させますと、製品が腐食・変色します。工事中の取扱いと手入れを上手に行ない、お客様へ美しい状態で引渡し下さい。



【工事中の養生例】

ビニールフィルムや梱包内材を利用して製品を覆う

紙テープ等でとめる

養生前のお手入れは上記のお手入れの方法に従って行なって下さい。

代表的なシリンダーの交換方法

A. シリンダーをねじ込んで取り付けるタイプの錠の場合 (BHシリーズ等)



1. フロントを外します。



2. シリンダー止めネジをゆるめます。



3. キーを差し込みます。(ディスクシリンダーの場合は不要)



4. キーを押さえながらシリンダーリングを持って左方向へ回します。



5. 回しきるとシリンダーが外れます。



6. シリンダーを外した状態。1～6を逆に行うとシリンダーを取り付けることができます。



7. シリンダーをねじ込むときは一杯まで回しきり、写真のようにMIWAの刻印が上になる位置まで戻してください。この位置が正確でないとシリンダー止めネジが入りません。

代表的な
シリンダーの交換
方法

B. シリンダー止めピンで取り付けるタイプの錠の場合 (LAシリーズ、LHシリーズ等)



1. フロントを外します。



2. シリンダー側のシリンダー止めピンを少し引き出します。なお上下のピンが一体になっているタイプもあります。(LHシリーズ等)



3. シリンダー止めピンを完全に引き抜きます。



4. シリンダーが外れます。



5. シリンダーを外した状態。1～5を逆に行うとシリンダーを取り付けることができます。

シリンダー・ケースの互換表

■ねじ込みタイプ

DS=ディスクシリンダー

| 主型式 | U9 | UR | UR-J | DS | PX | JN | EC | シリンダー型式 | サムターン型式 | 備考 | | | |
|---------|----|----|------|----|----|----|----|---------|---|--|-----------------|-------|----------------|
| ALS | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | AL・CY | AL・TH | | | | |
| ALT(A) | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ALR(A) | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| ALRE(P) | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| OLT | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| BH | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | BH・CY | BH・TH (φ38リング) または BH・TH44 (φ44リング) | シリンダーがDS、JNの場合 または、バックセットが 34mm以下の場合φ38リ ング。上記以外はφ44リ ングとなります。 | | | |
| BHE(P) | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| BHN(EP) | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| MBH | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| FF | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| SL80 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| UD | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | |
| AH | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | AH・THまたはAH・TH44 | | |
| FN | ○ | | | ○ | | ○ | | | | | FN・CY | FN・TH | BH・CY(TH)は使用不可 |

■ピン止めタイプ

DS=ディスクシリンダー

シリンダー・
ケース
の互換表

| 主型式 | U9 | UR | UR-J | DS | PX | JN | EC | シリンダー型式 | サムターン型式 | 備考 | | |
|------------------|----|----|------|----|----|----|----|-------------------------|---|------------------|-------|--|
| DA | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DA・TH | | | |
| LA, WLA | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 丸座使用の場合 | | |
| LA, WLA | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ELA**・CY | ELA**・TH | 長座使用の場合。**は座の番号。 | | |
| MA | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DA・TH | | | |
| LAT, LAL | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | — | | | |
| FG | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | DA・TH | | | |
| ALA | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| ALX | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| ANS | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | | AL3M・TH | | | |
| AL3M | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| AFF | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | | DA・TH | | | |
| AMS | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | MH・CY DS以外はDA・CYと同一 | | MH・TH | |
| AMT(A) | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| AMR(A) | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | |
| DH | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | DS用MH・TH DS以外MH・PXTH | | | | |
| LHSS | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | MH・PXTH | 丸座使用の場合 | | |
| LHSS | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | EMH・CY | EMH・PXTH | 長座使用の場合 | | |
| LHS, LHT | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DS用MH・TH | 丸座使用の場合 | | |
| MHS, MHT | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | | DS以外MH・PXTH | | | |
| LHS, LHT | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | EMH・CY | DS用EMH・TH | 長座使用の場合 | | |
| MHS, MHT | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | | DS以外EMH・PXTH | | | |
| LHH, MHH | | | | ● | ○ | | ○ | MHH・CY | DS用MHH・TH PX用MHH・PXTH EC用MHH・ECTH | | | |
| LHH-RM, MHH-RM | | | | | ● | | | MHH-RM・CY | PX用MHH・PXTH | | | |
| LHHF, MHHF | ○ | | | | | ○ | | MHHF・CY | MHH・TH | | | |
| LHHF-RM, MHHF-RM | ○ | | | | | ○ | | MHHF-RM・CY | | | | |
| ALAZ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DA・TH | | | |
| RR | ○ | ○ | | | | | | | | 丸座使用の場合 | | |
| RR | ○ | ○ | | | | | | ELA**・CY | ELA**・TH | 長座使用の場合。**は座の番号。 | | |

複数のシリンダーに対応するケースが○、単一のシリンダーに対応するケースを●で表しています。
 (注1)ディスクシリンダー使用時に錠型式が4型の場合はシリンダーが専用になります。
 (注2)レバーハンドル装着の場合のみ

■ピン止めタイプ

DS=ディスクシリンダー

| 主型式 | U9 | UR | UR-J | DS | PX | JN | EC | シリンダー型式 | サムターン型式 | 備考 |
|------|----|----|------|----|----|----|----|---------|---------|----|
| AFFZ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DA・TH | |
| LAZ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| FFZ | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | | | | |

■グレモン錠

DS=ディスクシリンダー

| 主型式 | U9 | UR | UR-J | DS | PX | JN | EC | シリンダー型式 | サムターン型式 | 備考 |
|-------------------------|----|----|------|----|----|----|----|-----------|-----------|-----------------------------------|
| GT10 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | GT11・CY | GT11・TH | |
| GT10-RH | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | GT-RH・CY | BH・TH | |
| GT10-H | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | BH・CY | | |
| GT41(42)-1 | ○ | | | | | | | GT41-1・CY | GT41-1・TH | |
| GT43RSH-1 | ○ | | | | | | | GT43-1・CY | GT43-1・TH | |
| GT41(42)-2 GT43RSH-2 | ○ | | | | | | | GT41-2・CY | — | |
| GT50 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | DA・CY | DA・TH | -RH型(脱着ハンドル)および-H型(片面ハンドル)の場合も同一。 |
| GTE50 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ALG51・TH | |
| ALG50 | | | | | | | | | | |

■その他

DS=ディスクシリンダー

| 主型式 | U9 | UR | UR-J | DS | PX | JN | EC | シリンダー型式 | サムターン型式 | 備考 | |
|----------|----|----|------|----|----|----|----|-------------|--|---|--------------------|
| HM | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | — | — | URシリンダーはHM(S)、H5HMのノブ形状D、W、U型、仕LST、SBのみの設定となります。 JNシリンダーはノブ形状D、W、U型のみの設定となります。 | |
| 145HM-1 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 145HM-4 | ○ | ○ | | ● | ○ | ○ | ○ | | | | |
| ARA | ○ | | ○ | | | ○ | | ARA・CY | — | | |
| DG | ○ | | | ○ | | | | DG・CY | DG・TH | | |
| GAA | ○ | ○ | ○ | ● | | | | GAA・CY | GAA・TH | | |
| MMS | ○ | | | ● | ○ | | ○ | MM・CY | DS用MM・TH | | |
| MMT | ○ | | | ● | ○ | | ○ | | DS以外MM・ECTH | | |
| MMH | ○ | | | ● | ○ | | ○ | MMH・CY | U9用MMH・U9TH DS用MMH・TH PX用MMH・PXTH EC用MMH・ECTH | | |
| MMH-RM | ○ | | | | ○ | | | MMH-RM・CY | U9用MMH-RM・U9TH PX用MMH・PXTH | | |
| NDR | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | NDR・CY | — | | |
| NDR-AT2 | ○ | | | | | | | NDR-AT2・CY | — | | |
| PMK | ○ | | | ○ | | | | PM・CY | — | | |
| RA | ○ | | ○ | | | ○ | | RA・CY | — | | |
| SL77-1 | ○ | | | ○ | | | | SL77-1・CY | SL77-1・TH | | 1型と2型でシリンダーが異なります。 |
| SL77-2 | ○ | | | ○ | | | | SL77-2・CY | — | | |
| TRF・TRT | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | TRF・CY | TRF・TH | | |
| TRU-1 | ○ | | | ○ | | | | TRU-1・CY | TRU-1・TH | | 1型と2型でシリンダーが異なります。 |
| TRU-2 | ○ | | | ○ | | | | TRU-2・CY | — | | |
| POSTE-1 | ○ | | | ○ | | | | POSTE-1・CY | POSTE-1・TH | 1型と2F型でシリンダーが異なります。 | |
| POSTE-2F | ○ | | | ○ | | | | POSTE-2F・CY | — | | |
| HK | ○ | | | ○ | ○ | | ○ | — | — | | |

シリンダー
ケース
の互換表

複数のシリンダーに対応するケースが○、単一のシリンダーに対応するケースを●で表しています。
(注1)ディスクシリンダー使用時で錠型式が4型の場合はシリンダーが専用になります。

LAS規格

まえがき

我が国における建築金物の規格化は、他の種々の工業製品に較べて、かなりおくれている。しかし、近年、建築金物も国内規格化・国際規格化への傾向は高まりつつあることも事実である。

錠においても、例外ではない。一部のものについては、その品質・性能が国際水準に達したものもあり、また、その水準さえ抜くものもある。しかし、こと規格に関しては遅れていることは否めない。日本では、日本工業規格 (JIS) が知られているが、建築金物業界に於いては、十分な形で実施されているとはいいがたい。

錠メーカー各社がこの会のメンバーとなり、任意の団体として、第一回を昭和49年5月東京で開催以来、中断することもなく毎月、東京、大阪で交互に会合を行い、平成1年1月をもって15年間172回を数える活動を続けている。その間、次のような活動実績がある。

- レバータンブラー箱錠 (JIS A5515)、円筒錠及びチューブラ錠 (JIS A5535) の日本工業規格改訂の原案作成。
- ドア用金物 (JIS A5518) の日本工業規格改訂の原案作成。
- 建築金物規格体系調査への参加 (日本工業技術院)。
- 優良防犯機器型式認定規定 (CP錠) の原案作成。
- 電気錠技術基準の作成 (日本電気工業会)

「建築金物の規格化に関する最近の動向」
(資) 堀 商店 資料引用

LAS
規格

国際規格化

ISO (International Organization for Standardization—国際標準化機構) が知られている。国際的な標準化の促進を目的とする機関であり、1952年 (昭和27年) に日本は加盟しており、我が国もここで決定した規格は守らなければならない義務がある。機構内に専門委員会が160以上あり、建具関係には、「ドアおよび窓」(建築金物を含む) 専門委員会 (Technical Committee) TC162があります。

錠基準化研究会

昭和48年、日本サッシ協会より「錠の寸法統一」の要望が出された。錠メーカー各社が自社の寸法・規格を固執していたら永久に決まるものではない。そこで、各社が自社の製品から離れて、最も適当と思われる寸法・規格を探求しようとしたのが、この研究会の発足である。同時に、ISOに日本案を提起して、日本の立場を明確にしようとし、その上でISOに加盟すべく計られた。

はじめに

錠は、古代の錠から始まって中世の錠・近代の錠・20世紀の錠まで「錠」は、それぞれ生活に密着した歴史をもっている。しかし、「錠」についての文献は少ないことも事実であるが、錠の役割は、戸締りであることは今も、昔もおなじである。

戸締りは、単に遮蔽物として、風などで開かない程度で他人の視線を防ぐのを目的とするとか、完全に扉を閉じて往来を制御するための障害装置とか、また、遮音性や気密性を保つことを目的とするなど、それぞれの目的に適するよう何種類もの錠が作られている。

錠には、種々雑多あるが大別して締りの種類・取付の種類・施錠機構別に分かれる。

○締りの種類

仮締錠(空錠)・本締錠・仮締り付本締錠(箱錠一本締錠と仮締錠が一体になったもの)・内締錠・外締錠

○取付けの種類(形状別)

彫込錠(箱錠)・面付錠・円筒錠・チューブラー錠・インテグラル錠・引戸錠・南京錠

○施錠機構別

ウォード錠・レバータンブラー錠・ピンタンブラー錠・ディスクタンブラー錠(ウェハータンブラー錠)・マグネチックタンブラー錠・カード錠・文字合わせ錠・電気錠等がある。

これらの錠が日本及び外国メーカー各社の製品として、市場に氾濫している。

そして、その錠は各メーカーがバラバラな形で用途・形状・施錠機構・機能を表す呼称番号や記号を付けている。また、あるメーカーでは、製品の発生別呼称とか全製品の系統的な脈絡さえ見受けられないような呼称が付けられていることもある。

錠選定者が各メーカーの製品カタログをもとにして、ある用途に応じた扉錠を選定する場合、グレードは別にして、機能別の系統化された基準がないため選定することが難しく、これらを明確にすることが必要である。

錠機能記号の規格化の主旨

日本の錠前業界において、錠の機能を表す記号を規格化することにより、錠の選定を容易にすることを目的とする。これは、外国製品を含めた日本にある錠の機能を表す記号・呼称に統一した機能記号を付けることで、その錠がどんな機能を持っているかを明確にし、いくつかの製品なり、いくつかのメーカーの比較対象が容易に出来るようにするものである。

錠基準化研究会の今後の規格化として

錠の用語・錠の試験方法・錠の性能規格・錠の寸法規格等を検討していく。ただし、性能規格・寸法規格については、市場のニーズに応じて規格化出来るものから規格化を進めていく。

LAS
規格

錠機能記号の規格

概要

- 1) この規格は、錠機能に関する統一した表示記号について規定する。
- 2) 錠機能を通行区分毎に分類し、その用途を明示した。
- 3) 通行区分毎に錠機能を記号化した。
- 4) 記号を理解し、使用し易くするために、記号と同時に表示図を規定した。
- 5) この規格は次の項目順に表示した。
 - 1 通行区分
表-1, 表-2
 - 2 施錠方法
表-3
 - 3 錠の形状
表-4
 - 4 記号の表記方法
表-5, 表-6, 表-7, 表-8
 - 5 錠機能の種類
表-9, 表-10
 - 6 表示図の解説
表-11
 - 7 錠機能表示記号の略図及び機能説明
箱錠、引戸錠、引違戸錠

1. 通行区分

通行区分とは、錠の施錠・解錠状態で扉の両側からどのような操作で開扉出来るかを示すものである。

操作を示す記号は、表-1に示す。

通行区分を、23通りに分類し、表-2に示す。

表-1 操作を示す記号

| 記号 | 操作の内容 |
|----|----------------------------|
| ◎ | キーなしで、ラッチ及びデッドボルトを操作し開扉できる |
| × | 開扉する手段がない |
| N | 錠の機能をしていない状態のもの |
| E | 非常解で解錠し、その後開扉できる |
| K | キーで解錠し、その後開扉できる |
| △ | 扉の内外の解錠操作の後、開扉できる |

表-2 通行区分による分類

| 通行区分 | 施錠状態 | | 解錠状態 | 用途例 |
|------|------|-------|------|-----------------|
| | 1 | 2 | | |
| 01 | | | ◎ ◎ | 通路 |
| 02 | ◎ × | | N | 多目的・ビル用トイレ |
| 03 | ◎ E | | N | 病院用トイレ |
| 04 | ◎ K | | N | ビル出入口 |
| 05 | K K | | N | 公共出入口 |
| 06 | × K | | N | 点検口・物置 |
| 07 | | | ◎ × | 一方通行扉 |
| 08 | ◎ × | | ◎ ◎ | 間仕切 |
| 09 | ◎ E | | ◎ ◎ | トイレ・浴室 |
| 10 | ◎ K | | | ホテル客室 |
| 11 | ◎ K | | ◎ ◎ | 事務所・学校教室・玄関 |
| 12 | K K | ◎ K | | 銀行通用口 |
| 13 | K K | ◎ K | ◎ ◎ | 銀行通用口に準ずる |
| 14 | × K | ◎ K | | 機械室 |
| 15 | × K | ◎ K | ◎ ◎ | 多目的(機械室に準ずる) |
| 16 | K K | | | 監獄通路 |
| 17 | K K | | ◎ ◎ | 玄関・事務所出入口 |
| 18 | × K | | | 監禁扉 |
| 19 | × K | | ◎ ◎ | 倉庫・テラス |
| 20 | × K | | × ◎ | 一方通行扉(施錠が必要な場合) |
| 21 | △ △ | | ◎ ◎ | コネクティング扉 |
| 22 | K K | ◎K&K◎ | ◎ ◎ | コネクティング扉 |
| 23 | × ◎ | K ◎ | ◎ ◎ | 寮玄関 |

2. 施錠方法

施錠方法を6通りに分類し、表-3に示す。

表-3 施錠方法による分類

| | |
|---|---------------|
| 0 | 施錠不可 |
| 1 | キー及びサムターン等で施錠 |
| 2 | 自動施錠可能 |
| 3 | 常時自動施錠 |
| 4 | 自動施錠+デッドボルト |
| 5 | 常時自動施錠+デッドボルト |

3. 錠の形状

錠の形状を9通りに分類し、表-4に示す。

表-4 錠の形状

| 箱錠 | インテグラル錠 | 円筒錠 | チューブラ錠 | 面付錠 | 引戸錠 | 引違戸錠 | ガラス扉錠 | 面付引戸錠 |
|----|---------|-----|--------|-----|-----|------|-------|-------|
| C | I | B | T | R | H | S | G | M |

注釈) 引戸錠……引戸の戸先部分に取付ける錠

引違戸錠……引戸召し合わせ部分に取付ける錠

ガラス扉錠……強化ガラス扉の上下のフレームに取付ける錠

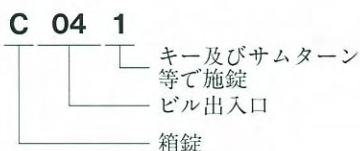
4. 記号の表記方法

表-2、表-3、表-4を用いて次のように表わす。

1) 機能記号の基本型



記入例



2) システム端末機の機能記号

(1) 電気錠……Eで表わす。

□ □ □ □ - E ①②

①は、電気的機能を示す。

表-5 ①部に示す記号

| | |
|---|----------|
| 1 | 通電時施錠型 |
| 2 | 通電時解錠型 |
| 3 | 瞬時通電施錠型 |
| 4 | 瞬時通電解錠型 |
| 5 | モーター式施錠型 |

②は、信号を示す。

表-6 ②部に示す記号

| | |
|---|---------------|
| 1 | 扉の開閉信号と錠の施錠信号 |
| 2 | 錠の施錠信号 |
| 3 | 閉扉かつ施錠信号 |

(2) 電気ストライク……ESKで表わす。

□ □ □ □ - ESK ①②③

①、②は、電気錠と同じ。③は、
組合わせ出来る錠の種類を示す。

表-7 ③部に示す記号

| | |
|---|-------------------------|
| 1 | デッドロックングラッチのみを有する錠 |
| 2 | デッドボルトのみを有する錠 |
| 3 | デッドロックングラッチとデッドボルトを有する錠 |
| 4 | ラッチとデッドボルトを有する錠 |

(3) 枠付電気錠……ESTで表わす。

□ □ □ □-EST①②

①、②は、電気錠と同じ。

3) 非常錠……Pで表わす。

□ □ □ □-P①

表-8 ①部に示す記号

| | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | キーを用いず、屋内から開放動作で解錠し、かつ、開放できる非常専用錠 ※1 |
| 2 | キーを用いず、一の動作で容易に解錠できる非常専用錠 ※2 |
| 3 | キーを用いず、一の動作で容易に解錠できる錠 ※3 |

※1 ワンタッチタイプ ※2 非常解錠装置付き ※3 ノブやサムターンの樹脂カバー付き

LAS
規格

5. 錠機能の種類

通行区分と施錠方法の可能な組合せ(錠機能)を表-9、表-10に○印で示す。

表-9 開き扉用錠

| | | 施錠方法 | | | | | |
|------|----|------|---|---|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 通行区分 | 01 | ○ | — | — | — | — | — |
| | 02 | — | ○ | ○ | — | — | — |
| | 03 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 04 | — | ○ | ○ | — | — | — |
| | 05 | — | ○ | ○ | — | — | — |
| | 06 | — | ○ | ○ | — | — | — |
| | 07 | — | — | — | ○ | — | ○ |
| | 08 | — | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| | 09 | — | ○ | ○ | — | — | — |
| | 10 | — | — | — | ○ | — | ○ |
| | 11 | — | ○ | ○ | ○ | ○ | — |
| | 12 | — | — | — | ○ | — | ○ |
| | 13 | — | — | — | — | ○ | — |
| | 14 | — | — | — | — | — | ○ |
| | 15 | — | — | — | — | ○ | — |
| | 16 | — | — | — | ○ | — | — |
| | 17 | — | ○ | ○ | ○ | — | — |
| | 18 | — | — | — | ○ | — | ○ |
| | 19 | — | ○ | ○ | ○ | — | — |
| | 20 | — | ○ | — | ○ | — | ○ |
| | 21 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 22 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 23 | — | — | — | — | ○ | — |




















表-10 引戸・引違い戸用錠



















| | | 施錠方法 | | | | | |
|------|----|------|---|---|---|---|---|
| | | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 通行区分 | 01 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 02 | — | ● | — | — | — | — |
| | 03 | — | ● | — | — | — | — |
| | 04 | — | ● | — | — | — | — |
| | 05 | — | ● | — | — | — | — |
| | 06 | — | ● | — | — | — | — |
| | 07 | — | — | — | ○ | — | — |
| | 08 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 09 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 10 | — | — | — | ○ | — | — |
| | 11 | — | — | ○ | — | — | — |
| | 16 | — | — | — | ○ | — | — |
| | 17 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 18 | — | — | — | ○ | — | — |
| | 19 | — | ○ | — | — | — | — |
| | 20 | — | — | — | ○ | — | — |

引違い戸錠は●のみ

6. 表示図の解説

表-11

| 表示図 | 名 称 | 説 明 |
|---|-------|--|
|  | シリンダー | 棒鍵及び引戸錠の押込み回転操作、ネジ締めタイプ 可変シリンダー等シリンダー機構のもの全てを含む |
|  | シリンダー | ラッチボルトを下げられるシリンダー |
|  | シリンダー | ラッチボルトをホールドするシリンダー |
|  | シリンダー | 解錠のみのシリンダーで、キーを抜いても施錠状態にならない |
|  | シリンダー | シャットアウト装置付シリンダー |
|  | サムターン | 引戸錠のスライドツマミ、プッシュボタンを含む |
|  | サムターン | ラッチボルトを下げられるサムターン |
|  | 非常解装置 | |
|  | 表 示 | 施解錠表示(在室表示を含む) |
|  | ハンドル | ノブ、レバーハンドル、サムラッチハンドル、ケースハンドル等含む |
|  | ハンドル | 常時固定又は、空転するハンドル |
|  | ハンドル | シリンダー付ハンドル |
|  | ハンドル | 押ボタン付ハンドル |
|  | ハンドル | ユニバーサルボタン付ハンドル |
|  | ハンドル | サムターン付ハンドル |
|  | ハンドル | 施錠操作する側(□の開いた側)が固定するハンドル |
|  | ハンドル | 相手側の施錠操作(□の開いた側)で固定するハンドル |
|  | ハンドル | 内・外いずれかの側からの施錠操作でも、固定するハンドル |
|  | ハンドル | □の開いた方にあるストップボタン又は専用工具で固定するハンドル |

| 表示図 | 名 称 | 説 明 |
|---|----------------|---|
|  | ハンドル | 扉が閉まると固定するハンドル |
|  | ハンドル | ラッチボルトとデッドボルトを同時に下げられるハンドル |
|  | ハンドル | デッドボルトを出し入れ出来るハンドル |
|  | ラッチボルト | |
|  | ラッチボルト | 閉扉動作によるハンドルの施錠状態が解除 (閉め出し防止装置付)されるラッチボルト |
|  | デッドロックングラッチ | |
|  | デッドロックングラッチ | 係止可能なデッドロックングラッチ |
|  | デッドロックングラッチ | キー又はサムターン操作した時、閉扉中一時的に係止されるラッチボルト |
|  | フックボルト | 引戸用、鎌 |
|  | フックボルト | 引違い戸、引寄せる鎌も含む |
|  | フックラッチ | 引戸用、常時フックラッチは動く |
|  | フックラッチ | 引戸用、施錠時フックラッチは固定 |
|  | デッドロックングフックラッチ | 引戸用、自動フック(トリガー付) |
|  | クレセント式フックボルト | 引違い戸 |
|  | 栓 | 引違い戸(栓錠、ネジ締め錠を含む) |
|  | デッドボルト | |
|  | スプリットデッドボルト | 内・外より独立して操作されるデッドボルト |
|  | ストップボタン | フロントに付いている施錠装置 ノブの中に付いているタイプも有る |

7. 機能記号の略図及び機能説明

下記に一例を示す。表-11を参照。

箱錠

| 区分 | 略 図 | | 機 能 記 号 | 閉扉自 動施錠 | 施 錠 操 作 | | 解 錠 操 作 | |
|----------------------|-----|----|------------|------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 室内 | 室外 | | | 室内側 | 室外側 | 室内側 | 室外側 |
| 13 KK ◎K ◎◎ | | | C134 | 可能 | シリンダー ストップ ボタン | シリンダー ストップ ボタン | シリンダー ストップ ボタン | シリンダー ストップ ボタン |

機能説明

解錠時、両側のハンドルでラッチボルトを操作。ストップボタンで施錠機構を操作し、室外側のハンドルを固定。この時、閉扉自動施錠可能。両側のシリンダーでラッチボルト・デッドボルトを操作。ラッチボルトは、デッドロッキングラッチ。

引戸

| 区分 | 略 図 | | 機 能 記 号 | 閉扉自 動施錠 | 施 錠 操 作 | | 解 錠 操 作 | |
|---------------------|-----|----|------------|------------|---------|-------|---------|-------|
| | 室内 | 室外 | | | 室内側 | 室外側 | 室内側 | 室外側 |
| 11 ◎K ↓ ◎◎ | | | H112 | 可能 | サムターン | シリンダー | サムターン | シリンダー |

機能説明

仮締り機能付。閉扉自動施錠可能。
解錠時、両側のハンドルでフックラッチを操作。
シリンダー・サムターンは施錠機構を操作。
施錠時、両側のハンドルは固定。

引違戸錠

| 区分 | 略 図 | | 機 能 記 号 | 閉扉自 動施錠 | 施 錠 操 作 | | 解 錠 操 作 | |
|--------------------|-----|----|------------|------------|---------|-------|---------|-------|
| | 室内 | 室外 | | | 室内側 | 室外側 | 室内側 | 室外側 |
| 04 ◎K ↓ N | | | S041 | | サムターン | シリンダー | サムターン | シリンダー |

機能説明

シリンダー・サムターンでフックボルトを操作。

以上は1989年発行の錠機能記号の規格(錠基準化研究会)による

LAS記号と当社製品の対応表

| 機種機能 | B | | C | | | | | | | | | | G | | H | | I | | R | | S | | T | |
|------|---------|---------|----------|----------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|------|--------|--------|------|-------|-------|--------|-----------|--------|------|---|---|--|
| | HK-0 | LL-0(K) | LO | LOF | OM | OPJ | HM-0 | F01 | AL3M-3 | BHNEP-3 | TR** | FF-3 | SL80-0 | SL77-3 | UD-3 | NDR-3 | SB-10 | SL60-3 | SL75S(Π)3 | SL79-3 | CF** | 0 | | |
| 010 | | | DA-3 | BH-3 | BHN-3 | DG-3 | BHE-3 | BHEP-3 | AL3M-3 | BHNEP-3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 021 | | | AHS-3 | AHB-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 022 | | | DA-6 | DA-8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 031 | | | DA-1 | BH-1 | BHN-1 | DG-1 | BHE-1 | BHEP-1 | BH-1M | | | | | | | | | | | | | | | |
| 041 | | | AHS-1 | AHB-1 | LAT-2A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 042 | | | DA-4 | BH-4 | BHN-4 | DG-4 | BHE-4 | BHEP-4 | GLH | AL3M-4 | AHB-4 | F16 | | | | | | | | | | | | |
| 051 | | | AHS-4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 052 | | | DA-2 | BH-2 | BHN-2 | DG-2 | BHE-2 | BHEP-2 | AL3M-2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 061 | | | AHS-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 062 | | | AHT-3 | ALR-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 073 | | | (MHT-3A) | (LHT-3A) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 075 | | | LHS-3 | MMS-3 | OLT-3 | MA-3 | LA-3 | AMS-3 | ALS-3 | ALA-3 | | | | | | | | | | | | | | |
| 081 | HK-3 | | ALX-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 082 | | | AMT-3 | ALT-3 | AMR-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 083 | | | LA-6 | LA-8 | BM | MHS-6 | MHS-8 | LHS-6 | LHS-8 | MA-6 | MA-8 | F02 | F19 | (F22) | | | | | | | | | | |
| 091 | HK-6 | | LP-6 | LP-8 | OM-6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 092 | LL-6(K) | | AHT-1 | F07 | ALR-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 103 | HK-2A | HKH | MHT-1A | MHH | LHT-1A | LHH | MMT-1A | MMH | F15 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 105 | | | MHS-1 | LHS-1 | MMS-1 | MA-1 | LA-1 | AMS-1 | ALS-1 | ALA-1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 111 | HK-2 | | OLT-1 | ALX-1 | F04 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 112 | HK-1 | | AMT-1 | AMTA-2 | AMR-1 | AMRA-2 | ALT-1 | ALTA-2 | ALRA-2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 113 | | | MHT-1 | LHT-1 | MMT-1 | F08 | F10 | F20 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 114 | | | MHT-4A | LHT-4A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 123 | | | MHT-4 | LHT-4 | MMT-4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 125 | | | MHT-2A | LHT-2A | MMT-2A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 134 | | | MHT-2 | LHT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 145 | | | OLT-4A | AHT-4 | ALR-4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 154 | | | MHS-4 | LHS-4 | MMS-4 | OLT-4 | MA-4 | LA-4 | AMS-4 | ALS-4 | | | | | | | | | | | | | | |
| 163 | HK-4 | | ALX-4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 171 | | | AMT-4 | AMR-4 | ALT-4 | OLT-4A | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 172 | | | AHT-2 | ALR-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 173 | | | MHS-2 | LHS-2 | MMS-2 | OLT-2 | MA-2 | LA-2 | AMS-2 | ALS-2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 183 | | | ALX-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 185 | | | AMT-2 | AMR-2 | ALT-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 191 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 192 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 193 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 201 | HK-2B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 203 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 205 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 211 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 221 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 234 | | | F11 | F12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

LAS
規格

廃止製品一覧

| 廃止製品名 | 廃止時期 | 代替製品 | 代替製品記載ページ |
|--------------------------|-----------|------------------------|---------------|
| AFFS | 1999年3月末 | AFFZ | 655 |
| ALAS | 1999年3月末 | ALAZ | 653 |
| ALB | 1997年3月末 | AL3M | 642 |
| ALG20 | 1998年3月末 | ALG50 | 366 |
| ALGR20 | 1998年3月末 | ALGR50 | 370 |
| ALK | 1997年9月末 | ALR | 637 |
| ALX | 2000年3月末 | _____ | _____ |
| ARHT | 1997年6月末 | _____ | _____ |
| ASH | 2000年3月末 | AST | 648 |
| BAN-H2LA | 1995年10月末 | BAN-IS2 | 667 |
| BAN-IS2A/2B | 1998年7月末 | BAN-IS2 | 667 |
| BAN-KS1B | 1999年1月末 | BAN-715S | 670 |
| BAN-LS | 1999年1月末 | BAN-AS | 661 |
| BAN-Q2LA | 1995年10月末 | BAN-IS2 | 667 |
| BAN-RS | 1999年3月末 | BAN-AS | 661 |
| BAN-TS1 | 1995年6月末 | BAN-ES1, BAN-715S | 669, 670 |
| BAN-WS | 1997年3月末 | BAN-AS | 660 |
| BAN-XS1 | 1997年5月末 | BAN-ES1 | 669 |
| BCL-001 | 1996年7月末 | _____ | _____ |
| DE, DEB, SE, SEB (バランサー) | 1999年3月末 | _____ | _____ |
| FF | 2000年3月末 | FG | 472 |
| GT20 | 1998年3月末 | GT50 | 362 |
| GT30 | 1998年3月末 | GT50 | 362 |
| GTE20 | 1998年3月末 | GTE50 | 372 |
| HMJ | 2000年3月末 | LAJ | 204 |
| ICC-002 | 1999年5月末 | _____ | _____ |
| IFBOX | 1999年3月末 | _____ | _____ |
| KMS-002 | 1998年12月末 | NTU-002, NTU-003 | 682 |
| KS-10 | 1997年3月末 | KS-110 | 705 |
| KS-20 | 1997年6月末 | KS-220 | 705 |
| LA-1G | 1999年3月末 | LAZ | 654 |
| LHH | 2000年3月末 | LHHF | 200 |
| LTK11 | 2000年3月末 | _____ | _____ |
| M800 | 1999年3月末 | M600 | 786 |
| MAH | 2000年3月末 | _____ | _____ |
| MHH | 2000年3月末 | MHHF | 270 |
| MP | 1997年5月末 | _____ | _____ |
| MWL-230, 350 | 2000年3月末 | _____ | _____ |
| NTC-001 | 1997年3月末 | NTU-001 | 682 |
| NTC-002 | 1997年5月末 | NTC-003 | 675 |
| PCP62 | 1997年4月末 | _____ | _____ |
| RT30 | 1997年4月末 | _____ | _____ |
| SLS | 1997年12月末 | SL60-3, SL75-3, PBシリーズ | 477, 478, 507 |
| T-3110 | 1996年7月末 | TKU-002 | 671 |
| TEC3 | 1997年3月末 | _____ | _____ |
| TEC10 | 1997年3月末 | _____ | _____ |
| TECS-6CCBL | 1999年3月末 | _____ | _____ |
| TEFS-6CC | 1999年3月末 | _____ | _____ |
| TK3L | 1998年6月末 | TK4L | 568 |
| TK-001 | 2000年3月末 | TKU-002 | 671 |
| TK-002 | 2000年3月末 | TKU-002 | 671 |
| TKU-001 | 1996年6月末 | TKU-002 | 671 |
| 排煙ドア・給気ドア | 2000年3月末 | _____ | _____ |

専用カタログのご案内

美和ロックの製品を詳しく紹介した専用カタログをご案内します。

下記カタログをご希望の方はお気軽に美和ロック本社・支店・営業所までご請求ください。



製品カタログ(ダイジェスト版)

総合カタログに掲載の製品をダイジェスト版としてまとめました。



システム端末機カタログ

総合カタログに掲載の電気錠システム編を別冊にしました。



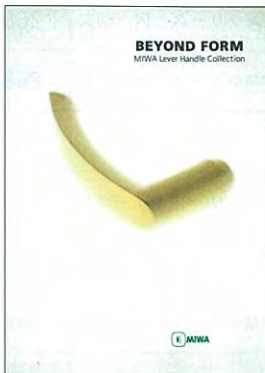
ドアクローザ・ヒンジカタログ

総合カタログに掲載のドアクローザ・ヒンジ編を別冊にしました。



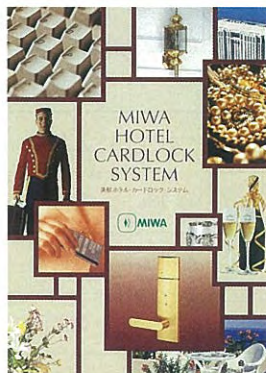
切込外観図集

総合カタログに記載の錠前編の切込外観図を別冊にしました。



レバーハンドルカタログ

当社の標準レバーハンドルをすべて掲載しています。



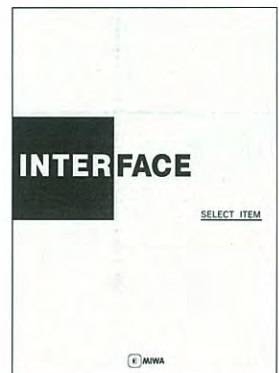
美和ホテルカードロックシステム

防犯・防災性に加えて利便性を兼ね備えたホテルカードロックシステムを提案しています。



INTERFACE

黒川雅之氏によってデザイン開発された、ANSI適合品のINTERFACEシリーズ。



INTERFACE (SELECT ITEM)

黒川雅之氏によってデザイン開発された、ANSI適合品のINTERFACEシリーズの中からセレクト。



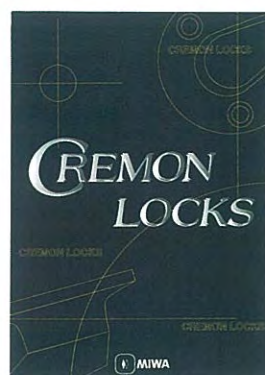
GIGA

LHS, MHSシリーズをベースにした錠前に加えてタオル掛けまでトータルにデザイン開発されたGIGAシリーズ。



C70

住宅一件に使われる金物を、玄関錠から家具の取手までコーディネートできるC70シリーズ。



グレモン錠カタログ

当社のグレモン錠をすべて掲載しています。



サインSDI-A/Bシリーズ

環境空間において、情報を知らせるサイン計画を紹介しています。

専用カタログのご案内

自動施錠錠の選定方法

| 用途例 | 機能 | | | | 把手 | 適合錠 | 備考 | 頁数 |
|-------------|--------|---------|---------|---------|---------------|--------|--------------------------------|------------|
| | ダブルロック | シャットアウト | アンチパニック | ラッチホールド | | | | |
| 住宅玄関 | × | × | × | ○*1 | × | AHB | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 330 |
| 集合住宅・寮等の出入口 | × | × | × | ○*2 | レバーハンドル | TK4LT | ランダムテンキーとの組み合わせ | 568 |
| | × | × | × | ○*2 | × | AHS | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 330 |
| | × | × | × | × | × | AHT | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 330 |
| 門扉 | × | × | × | ○*2 | × | AHS | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 330 |
| | × | × | × | × | × | AHT | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 330 |
| 事務室・玄関 | × | × | × | × | レバーハンドル ノブ | OLT | 電気錠ALシリーズと同一切欠 | 282 |
| 通用口 | × | × | × | ○*2 | レバーハンドル | LAT | | 206 |
| | ○ | × | × | × | レバーハンドル | LHT | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 198 |
| | ○ | × | ○ | × | レバーハンドル | LHTA | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 198 |
| | ○ | × | × | × | ノブ | MHT | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 268 |
| | ○ | × | ○ | × | ノブ | MHTA | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 268 |
| 一方通行扉 | × | × | × | ○*2 | レバーハンドル | LAT | | 206 |
| | ○ | × | × | × | レバーハンドル | LHT | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 198 |
| | ○ | × | ○ | × | レバーハンドル | LHTA | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 198 |
| | ○ | × | × | × | ノブ | MHT | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 268 |
| | ○ | × | ○ | × | ノブ | MHTA | 電気錠AMシリーズと同一切欠 | 268 |
| | ○ | × | × | × | ノブ | MMT | | 276 |
| 通用階段口 | × | × | × | ○*1 | レバーハンドル | LAL | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 206 |
| 共通出入口 | × | × | × | ○*1 | レバーハンドル | LAL | 電気ストライクとの組み合わせが可能 | 206 |
| ホテル客室 | ○ | ○ | ○ | × | レバーハンドル | LHH(F) | 室外側からシリンダー交換できるタイプもあり(U9・PXのみ) | 200 202 |
| | ○ | ○ | ○ | × | ノブ | MHH(F) | 室外側からシリンダー交換できるタイプもあり(U9・PXのみ) | 270 272 |
| | ○ | × | × | × | ノブ | MMT | | 276 |
| | ○ | ○ | × | × | ノブ | MMH | 室外側からシリンダー交換できるタイプもあり(U9・PXのみ) | 278 |
| | ○ | ○ | ○ | × | ノブ | MMHA | | 278 |

*1 キー・サムターン操作

*2 フロントのラッチストップネジ